

EBPM人材の 育成の取組について

令和6年9月26日
法務省大臣官房秘書課

法務省では、省内で行われている勉強会や他府省庁主催の各種統計研修等に参加している職員も多いが、学んだ内容を基にデータ分析を実践する経験・機会が不足しており、省内におけるEBPMの取組推進における課題となっている。

背景

- ✓ 省内では、**EBPMに関する勉強会**を不定期で開催しており、多くの職員が参加している
- ✓ 加えて、**総務省や内閣府が所管する各種統計研修**にも一定数の職員が参加している



課題認識

- ✓ EBPMや統計についての関心は徐々に高まっており、座学知識も一定数の職員に定着しているが、その知識を基に**データ分析を実践する機会・経験が不足**しており、実際の業務にいかすところまで至っていない
- ✓ 結果として、「**データ分析で何ができるのか / 分かるのか**」「**EBPMの取組を進めるためには何が必要なのか**（調査設計、データ、分析環境等）」がイメージできずに、関心はあるが二の足を踏んでいる職員・局部課等が多い状況

ブートキャンプの概要

職員が自らテーマを設定し、課題設定からデータ分析までのプロセスを試行錯誤的に実践する機会を設け、局部課等におけるデータ分析の中心的役割を担う職員等の育成を図る。

| 項目 | 内容 |
|-----|--|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none">✓ 自身の業務に関連する行政課題を題材として、EBPMの一連の流れを体験・実践する場を設け、職員の実践力向上に資する取組とする✓ 併せて、データ分析実践に伴う省内外からのデータ収集や各種統計ソフトウェア（R, Python, SPSS, Excelソルバー等）の利用を通じて、今後の省内におけるEBPMの取組推進に向けた環境づくりの一助とする✓ 幹部層が実践内容を評価する機会を設け、EBPM実践に向けた省内の機運醸成を企図する |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none">✓ EBPM講義：1回（90分） ※令和5年度EBPM研修として実施✓ キックオフ：1回（2時間）✓ 全体会：各チームが集まり、進捗等を共有 ※全6回程度（1回2時間程度）✓ チームでの作業：適宜開催✓ 幹部報告会：中間報告（11月頃） / 最終報告（2月）の2回 |
| 期間 | ✓ 2023年9月～2024年2月 |
| 対象者 | <ul style="list-style-type: none">✓ 参加希望者✓ 局部課等ごとにチームを編成 <p>▶ 4局部課等から23名の職員（新規採用者を含めた若手職員を含む。）が参加</p> |

分析テーマ等

参加職員は、所属局部課等ごとにチームを編成し、かつ、データ分析に関する知識や経験に応じて、基礎（3チーム）、応用（4チーム）に分かれ、自身の業務に関連が深い下記のテーマについて分析

| テーマ | メンバー構成等 |
|---|---------------------|
| 名古屋事案提言書における職員意識調査の課題 | (基礎) 矯正局、3名 |
| 協力雇用主の下での就労・職場定着と再犯 | (基礎) 保護局、3名 |
| 刑事施設における就労支援に関する取組等と再入所の関連について | (基礎) 法務総合研究所・矯正局、3名 |
| 政策効果の推定に分析デザインが与える影響 ー刑事施設における職業訓練による2年以内再入所防止効果の分析を事例としてー | (応用) 矯正局・保護局、3名 |
| 不法残留者に係る分析 | (応用) 入管庁、3名 |
| テキストデータの活用による過誤事案の分析 | (応用) 入管庁、3名 |
| 統計の素人にもできるEBPM ～Rを使った地理空間情報(GIS)の活用と分析～ | (応用) 入管庁、3名 |

実施状況等

EBPM研修を行った後、アドバイザーのサポートを得ながらチームごとに作業。毎月全体会を開催し、チームの進捗状況や課題等を管理。幹部層向けに中間・最終報告会を行った。

| 時期 | 会議等 | 内容 |
|-------|-------------|---|
| 8/30 | 令和5年度EBPM研修 | データ利活用についての講義（考え方、分析手法等） ※ 研修後、9月6日まで参加部局・参加者を募集 |
| 9/8 | 全体会 # 1 | <p>①対象とする政策課題の設定 ②調査設計の検討 ③データの棚卸 →調査設計修正・取りまとめ</p> <p>検討内容を幹部層に説明 幹部層からコメント。</p> <p>④データの収集・加工 ⑤統計ソフトを用いた分析の実施 ⑥分析結果の解釈、施策検討</p> |
| 10/6 | 全体会 # 2 | |
| 10/20 | 全体会 # 3 | |
| 10/27 | 中間報告 | |
| 11/24 | 全体会 # 4 | |
| 12/15 | 全体会 # 5 | |
| 1/26 | 全体会 # 6 | <p>検討内容を幹部層に向けて説明 幹部層よりコメント、評価</p> |
| 2/16 | 最終報告 | |

チームごとに作業

※ 全体会に出された課題・宿題について、チームごとに検討・作業
※ 毎週月・木・金・アドバイザー相談対応

PPDACサイクルに沿って検討

Problem : ロジックモデル等を用いて、対象とする行政課題を設定

Plan : 調査設計を検討
(仮説探索 / 仮説検証、過去効果検証 / 将来効果実証 等)

Data : 利用可能なデータの棚卸、(可能なら) 追加データの取得

Analysis : 統計ソフトを用いた分析実施

Conclusion : 分析結果の解釈、施策検討

※ オレンジ色は幹部層が出席

幹部層としては、政策立案総括審議官のほか、ブートキャンプ参加職員が所属する局部課等の幹部が出席

ブートキャンプの振り返り

ブートキャンプ参加職員及び最終報告会に参加した幹部の声を確認したところ、以下のとおりであり、職員の実践力向上やE B P Mの取組推進に向けた環境づくりに一定の効果があったと評価できることから、本年度も引き続き同様の取組を行うこととする。

参加職員の声

- ✓ 初心者でも、まずはこういう場でデータ分析をやってみて、それを継続的に実施することで、データ分析に慣れていけると感じた。
- ✓ データ収集を行う際は、仮説検証を念頭に置き、質問設計を十分に検討する必要があることを理解した。
- ✓ 今回の実践を通して、定量データのみで傾倒するのではなく、定性データにも価値を置くことの必要性を認識した。
- ✓ 統計ソフトウェア「R」を利用してテキストマイニングを行った。テキストデータは、データのクレンジングや細かな調整作業に苦勞するが、その一方で、活用されずに眠っているテキストデータを施策にいかすことができる無限の可能性を秘めていることに気付いた。
- ✓ 省内のE B P M推進のために、今後もこのような場を通じて、データ分析に長けた人材を育成することが必要だと思う。

幹部の声

- ✓ 一年目の職員でも、ここまでの効果検証ができることに驚いた。
- ✓ E B P Mの担い手をいかに内製化するかが課題であったが、今回のブートキャンプを通して、組織的なサポートがあれば人材育成が可能であることが分かった。今後も続けてほしい。